

課題

- 中高生の自主的な読書活動の推進
- 「新しい生活様式」を踏まえた取組の推進

事業のねらい

コロナ禍での対面とオンラインのハイブリット的な読書活動の取組を県内全域に広め、子どもが主体的に読書活動に取り組み、生涯にわたる望ましい読書習慣の形成を目指す。また、発達段階に応じた研修の充実を図り、乳幼児期から高校期に至る切れ目のない読書活動を推進する。

企画運営委員会

- 第1回6月22日  
第2回2月7日
- 新しい生活様式を踏まえた読書活動の在り方や効果的な実施方法等の検討
  - 令和4年度事業計画の内容検討及び助言
  - 子どもの発達段階に応じた読書活動の取組への助言及び先進的な取組の紹介
  - 事業の成果についての検証、分析



オンラインによる読み聞かせとワークショップ

- 講師 ① 南相馬市立中央図書館 主任司書 佐藤 真紀 氏  
② 科学読物研究会 坂口 美佳子 氏
- 対象 ① 大玉村立大山幼稚園 (全園児)  
② 平田村立蓬田小学校 (3年生)  
南相馬市立八沢小学校 (3年生)
- 日時 ① 令和4年12月14日 (水) 10:00~10:30  
② 令和4年12月15日 (木) 10:30~11:15

コロナ禍の中、「新しい生活様式」などを踏まえ、幼稚園ではZoomを活用したオンラインによる指遊びの実演と読み聞かせ、小学校ではZoomを活用した読み聞かせの実演と複数校の児童による読書についてのワークショップを実施した。

Zoomを活用したオンラインによる指遊びの実演と読み聞かせ



幼児対象

- ①「幸せなら手をたたこう」手遊び
- ②「ばけげばけはっぱ」読み聞かせ
- ③「おやつランポリン」読み聞かせ
- ④「メリークリスマスおおかみさん」読み聞かせ
- ⑤「サンタのおまじない」読み聞かせ

Zoomを活用したオンラインによる読み聞かせと複数校の児童による学び合い



児童対象

- ①「じしゃくのふしぎ」読み聞かせ
- ②「磁石の実験」～パッキンワニ君をつくろう～
- ③交流(学び合い)



参加者の声

- 「おやつランポリン」の絵本がおもしろかった。(園児)
- もっと磁石についての本を読んでみたいと思いました。(小学生)
- 他の学校と交流できて楽しかった。(小学生)
- 講師の先生が、絵本の余韻をととても大切にしていたので、教師も読み聞かせの際に余韻を大切にしようになった。(幼稚園職員)
- 物語や童話等のお話が読書活動の中心であったが、説明文(昆虫や食べ物等)の本も増え、ジャンルも広がった。(小学校教員)
- オンラインでの読み聞かせでも子どもたちが楽しんでくれてよかった。今度は、実際に訪問して、対面で読み聞かせをしたい。(講師)

「発達段階に応じた読書研修会」

日時: 令和4年9月10日 (土) 10:30~15:45  
場所: 国立磐梯青少年交流の家

- 講義1「想いは絵本から。～読み重ねる大切さ～」  
(乳幼児期) 講師 ぶれあ保育園・南行徳 保育士 田中 雄人 氏
- 講義2「未来につなげる読書環境  
～子どもと本を結ぶ南相馬市立図書館のアウトリーチサービス～」  
(小学校期) 講師 南相馬市立中央図書館 主任司書 佐藤 真紀 氏
- 講義3「読書を含む活字情報採取の変容が子どもの社会化に及ぼす影響  
～調査データの分析結果に基づく考察～」  
(中高校期) 講師 東京学芸大学教育学部 准教授 腰越 滋
- パネルディスカッション「切れ目のない読書支援に必要なことは？」  
コーディネーター 佐藤 佐敏 氏(福島大学人間発達文化学類教授兼福島大学附属小学校長)  
パネリスト 腰越 滋氏、佐藤 真紀 氏、田中 雄人 氏



成果

- Zoomを活用したオンラインによる読み聞かせでも、絵本の世界に入り込み、楽しんでいた。また、読書に関する交流を行い、読書への興味関心を高めることができた。
- 乳幼児期から中・高校期までの各発達段階に応じた講義・パネルディスカッションを通して、「切れ目のない読書支援」について、議論を深めることができた。

## 課題

- 小中学校ともに言語能力・情報活用能力の育成が必要。
- 学校図書館の環境整備・授業での活用が進んでいない。
- 府内の小中学校ともに、不読率が全国平均を上回っている。

## 事業のねらい

学校図書館を活用した授業を行うことで、情報活用能力・言語能力の育成を図る。事業実施校には、学校図書館活用に造詣の深いスーパーバイザーを派遣し、授業づくりや環境整備に向けた指導助言を行うとともに、事業実施校の取組みを広く普及させ、府域の学校図書館の機能の充実をめざす。

## 取組実施地域・学校の指定

吹田市、高槻市、茨木市、大東市、交野市、東大阪市、八尾市、富田林市、藤井寺市、大阪狭山市、泉大津市、和泉市、岸和田市、貝塚市  
【14市】  
小学校10校 中学校7校

## 実施内容

### 【大阪府の取組み】

- 事業実施校に担当教員を配置
- スーパーバイザーによる担当指導主事への指導助言
- 事業実施校へスーパーバイザーを派遣
- 事業実施校への指導助言

### 【市町村の取組み】

- 事業実施校の選定・成果普及計画等の設定
- 事業実施校の進捗管理及び訪問支援
- 事業実施校の公開授業及び校内研修支援

### 【事業実施校の取組み】

- 言語能力・情報活用能力の育成に向けた学校図書館を活用した授業実践
- 公開授業、校内研究の推進
- 学校図書館を活用した実践事例の作成



### 【研究成果の周知】

- フォーラムによる分科会の実施 (オンデマンド形式と集合型によるハイブリッド実施)
- 事業実施校の取組を府教育庁HPにWEBアップ
- 協力校への学校公開参加者 654名

令和4年度 大阪府教育庁「スクールエンパワーメント推進事業」  
学校図書館を充実・活用するためのモデル校

言語能力・情報活用能力の育成に  
つなげる学校図書館の充実・活用  
～今一度、書籍活用のよさを考える～

学校図書館を充実・活用するためのモデル校  
言語能力及び情報活用能力の育成のため、学校全体で学校図書館の環境整備を行うとともに、本に親しむ活動や読書教育を促す。各教科等の授業づくりや教科横断的な学習に結び、子どもたちの学力を向上させる。

高槻市立第四中学校  
司書教諭 宮崎 望

事業実施校の実践を参考に学校図書館を活用した授業づくりを府域内へ広く普及・発信  
動画視聴回数 322回  
フォーラム参加 96人

## 成果

### 【児童生徒アンケート】 (小・中学校)

	令和4年 5月(%)	令和4年 12月(%)
わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネットなどで調べている	79.7	82.6 2.9ポイントUP
本やインターネットなどで調べたことをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている	52.6	57.3 4.7ポイントUP
学校図書館での学習や、本や資料を使って調べることは楽しい	62.9	69.8 6.9ポイントUP

【令和4年度学校図書館活用授業単元数】  
(授業モデル、令和5年2月時点)  
合計 小学校149事例 中学校84事例

○学校図書館活用授業の実践事例を府域へ発信、さまざまな教科等で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた言語能力を育成する授業づくりを普及。



参考: 学校図書館を活用した授業実践例(大阪府教育庁HP)  
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/gakkoutosyokan/index.html>

### 【取組み成果リーフレット】

○取組み概要をまとめた「取組み成果リーフレット」を作成。WEBサイトへ掲載





## 課題

○小学校から中学校に進むに従い、読書離れが顕著になっており、小学生期の読書習慣の定着が課題

○本県は図書館設置率が全国平均より低く、読書環境の面において子供が読書活動を行う上での課題

## 事業のねらい

- (1) 黙食を行う小学校の給食時間に朗読放送を行い、関連図書の設置を実施することで読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。
- (2) 学童保育所や困難を抱える子供へのコミュニケーションを通じて小学校低学年及び中学年における読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。
- (3) 上記の取組に対し県がボランティアの養成や図書貸出の支援を行うことで、人材や、蔵書量に課題を抱える自治体でも取組が導入可能か検証

## 実施内容

### ①かつらぎ町での取組

(かつらぎ町へ再委託)



【取組内容】

かつらぎ町内の小学校  
(5校 721人)

【取組内容】

黙食を行っている小学校の給食時間に、ボランティアが作成した朗読録音CDやライブ朗読を放送し、読書への興味を誘った。同時に朗読図書を含む関連図書を学校へ貸出しを行い、読書につなげた。

### ②学童保育所や困難を抱える子供への取組

(那智勝浦町へ再委託)

【対象】

那智勝浦町内の学童保育所 4 か所  
(小学校 1～4年生約 40名)  
困難を抱える子供 (不登校)  
で青少年センターの学習指導に通う生徒、児童8名・4家庭に訪問



【取組内容】

興味関心を聞き取りながら、書籍・電子書籍の紹介などを行いながら、読書を促した。

### ③ボランティア養成及び図書貸出の支援

(和歌山県が実施)



上記、かつらぎ町の朗読ボランティアの養成講座を実施。また不足する図書についても県立図書館から貸出を行った。

## 成果・課題

【成果】

(かつらぎ町での取組)

アンケートでは大きな変化は見られなかったが、関連図書を手にする児童が多く見られたことから、読書のきっかけづくりとして一定の効果は確認できた。

(学童保育所での取組)

テーマ別の配本を行うことにより、様々な本について知り、興味をもった本を見つけることができた。

(困難を抱える子供への取組)

大人と一緒に本を勧めあう時間を持つことにより、子供どうしで本を勧めあうようになった。

【課題】

(かつらぎ町での取組)

不読者の減少や、読書冊数の増加が数字での効果が現れにくいのが、読書への興味の定着化を図るために継続しての取組が必要である。

(学童保育所での取組)

電子書籍は興味関心の対象となるが、提供の方法や場面の設定にも工夫が必要である。

## 課題

- 学校の授業時間以外に読書を全くしない児童生徒の割合が全国と比較して高い傾向にある。
- 読書活動の取組及び読書活動推進のための取組の実施状況の割合が全国と比較して低い。
- 図書選定基準と図書廃棄規準の策定の割合が全国平均より低い。

## 事業のねらい

- 学校・家庭・地域が連携し、学校図書館の機能を生かせるような取組を各学校に普及させることで、児童生徒の読書習慣の形成及び読書活動の推進につなげる。
- 児童生徒に読書習慣や情報活用能力を身に付けさせるために、魅力ある学校図書館の図書整備体制や読書環境体制を構築する。

## 取組実施地域・学校の指定

- 宇陀市内各小学校

## 実施内容

### ①指定地域における取組

- ・市立図書館司書との連携
- ・教職員への研修会の実施
- ・校内の読書環境整備

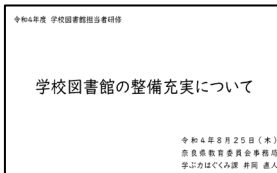


市立図書館司書による支援  
地域ボランティアによる支援

### ②学校図書館担当者研修の開催

- ・指導主事による説明
- ・学識経験者による講演

ZOOMによるオンライン配信  
(参加者125名)



### ③「学校図書館の充実のために」の作成

- ・学校図書館の目的、運営、機能
- ・学校図書館の機能と児童生徒のかかわり
- ・学校図書館の各種計画について

作成部数: 500部  
配布先: 各市町村教育委員会  
各小・中・義務教育学校

学校図書館の充実のために



### ④奈良県子ども読書活動推進フォーラムの開催

- ・指導主事による説明
- ・研究地域による実践発表
- ・学識経験者による講演

県教育研究所への参集及び  
ZOOMによるオンライン配信の  
ハイブリット開催(参加者66名)

## 成果

### ○研究指定地域における成果

- ・学校図書館の利用人数、利用頻度が増加し、児童一人当たりの図書貸出冊数は、昨年度と比較して1.4冊増加した。
- ・図書館環境の改善を通して、事業当初のアンケートで「全く読書をしていない」と回答した児童が、読書に関心をもつ姿が見られた。

### ○学校図書館関係者への周知

- ・学校図書館担当者研修を実施し、司書教諭及び学校司書をはじめとする学校図書館担当者の資質向上を図った。
- ・学校図書館全体計画例や学校図書館運営計画例を記載したリーフレットを市町村教育委員会及び県内義務教育諸学校に配布し、各学校において計画的・組織的に学校図書館を運営し、図書整備体制や読書環境体制を構築する際の資料とした。
- ・奈良県子ども読書活動推進フォーラムにおいて、研究指定地域の取組をもとに、学校図書館の充実の意義やその取り組み方等について周知することにより、子どもの読書活動の推進に向けた雰囲気醸成を図った。

## 課題

- 児童生徒の読書時間の減少  
(令和3年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問用紙より)
- 学校図書館担当者の資質能力向上

## 事業のねらい

- ・学校図書館の利活用及び児童生徒の読書時間の増加
- ・推進協力校の取組の還流による市内小中学校の学校図書館の取組の活性化
- ・地域とともにある学校づくりの推進

## 取組実施地域・学校の指定

名張市立箕曲小学校



「みのわっ子  
読書活動推進プロジェクト」

## 実施内容

### ①学校図書館担当者研修



若手教員の増加に伴い、経験年数の浅い教員が図書館教育担当者となり取組の継続が図られないという現状から、司書教諭をはじめとする図書館担当者の資質向上を目指す研修を実施した。

### ②子ども読書活動推進研修講座・図書館ボランティア研修講座



学校図書館ボランティアや司書教諭等、学校司書の資質を向上させ学校図書館の人的充実を進めるための講座を実施した。

### ③学校図書館を活用した実践公開



「みのわっ子読書活動推進プロジェクト」の取組を公開した。  
授業での学校図書館の活用が少ないこと、必要な情報を得る手段としてICTを活用することがほとんどであるという現状から、百科事典など学校図書館を活用した授業公開を行った。  
学校司書と司書教諭の連携についてや地域ボランティアとの連携について実践公開をした。

## 成果

### ○学校図書館担当の意識向上、取組の活性化

学校図書館の役割や活用の仕方や学校図書館担当者の役割等、具体的な取組方法について研修することにより、担当者の意識が高まった。各校で学校司書と連携した取組に活かすことができた。

受講者アンケート：

満足91.3%

どちらかという満足8.7%

### ○地域とともにある学校づくりの推進

学校図書館ボランティアが情報交換し、ボランティアの幅を広げ、交流する場となり、地域と学校をつなぐ取組となった。

### ○学校図書館来室者・貸出冊数の増加

学校図書館推進協力校の箕曲小学校では、「読書は好きですか。」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が増加した。

	読書は好きですか (肯定的回答)
令和4年 5月	71.4%
令和4年 10月	80.0%



## 課題

○本県においては、平成25年度から学校司書の配置が進み、令和3年度は30市町村のうち26市町に合計76名が配置されている。しかし、国が掲げる1.3校に1人という配置には到底至っておらず、特に、山間部が多い地域では、人材の確保が困難であるという現状である。  
○令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」において、和歌山県の小学校における学校図書館図書標準の達成状況は57.6%、中学校45.7%として学校図書館における物的整備の状況は低く、蔵書整備状況としても児童生徒等の読書環境の整備に資する多様な蔵書状況とは言い難い。県としては、学校図書館ボランティアの協力も得ながら、学校図書館の整備・充実に努めているところであるが課題は依然として残る。

## 事業のねらい

- 学校司書と連携した学校図書館の効果的な活用を研究することで、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学校図書館を活用した授業を提案するとともに、授業に必要な基本図書等を有した学校図書館としての機能の強化を図る。
- 小・中・義務教育学校だけでなく、高等学校との連携を深めることで、校種を超えた学校図書館の利活用を促進する。また、学校司書の資質・能力の向上を図ることで、図書の整備状況の点検・更新等を進め、学校司書の有用性を周知し、さらなる学校司書の配置を促進することを目指す。

## 取組実施地域・学校の指定

**推進校**(中津中学校・中津小学校)  
**連携校中学校**  
(丹生・早蘇・美山・〈組合立〉大成)  
**連携校小学校**  
(和佐・江川・山野・三百瀬・川辺西・川原河・笠松・寒川第一)

## 実施内容

### ①企画運営委員会の実施



本調査研究の取組や結果を共有するとともに、学校図書館資料(特に新聞)を活用した効果的な方法や、学校図書館図書情報のデータベース化の促進に向けた取組等を学ぶことにより、本研究地域・関係職員等の意識の向上へと繋げた。

### ②学校図書館資料を活用した授業づくり研修会の実施



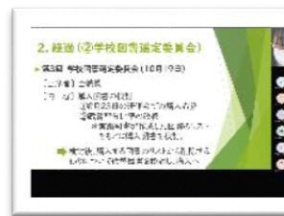
学校司書や司書教諭等を対象に県立高等学校の図書館を活用した研修会を、紀南・紀北地方のそれぞれで実施した。学校図書館資料の活用方法を演習を通して学ぶことにより、教職員の資質・能力の向上を図り、学校図書館の効果的な活用を促進した。

### ③学校図書館図書選定委員会運営モデルの研究



日高川町立中津小学校、中学校(協力校)において、「教職員の活用できる学校図書館」の実現に向け、蔵書配分率等を指標に、学校図書館図書選定委員会による持続可能な運営モデルケースを研究した。

### ④協力校の取組に係る報告会



協力校の学校図書館図書選定委員会の運営モデルやその成果について、町内全体で情報を共有した。その後、和歌山県教育センター学びの丘HPIにて、県下への取組内容の普及を行う予定。(3月下旬)

## 成果

### ○学校図書館の取組の普及

実践的で効果的な研修となるよう、県立高等学校の図書館資料(今回は主に新聞)を活用し、県立及び市町村の学校司書・司書教諭等で壁新聞の作成に取り組んだ。



壁新聞の作成を通して、効果的な情報の扱い方や収集、展示の仕方等を学ぶ。また、管理職(図書館長)として、児童の読書機会を促す取組や方法等も学んだ。

### ○学校図書館図書選定委員会運営のモデルケース

下記の成果より、今後は、この学校図書館運営モデルにより、町内の学校においても、教職員の活用しやすい学校図書館の実現に向け、取組を進められる。

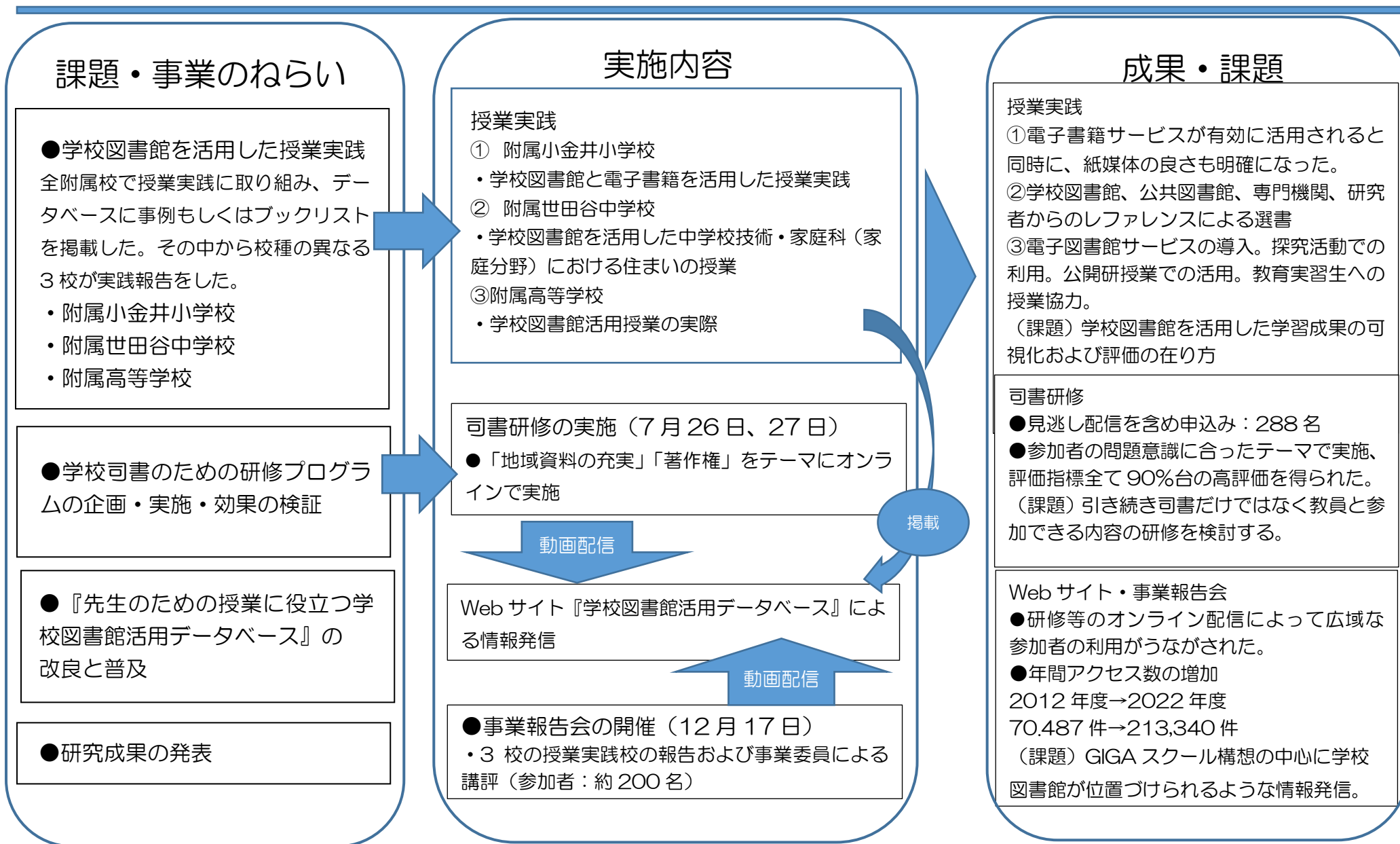


### ○学校図書館の蔵書配分率の改善

協力校とともに、蔵書配分率で高い割合を占めていた文学(9類)の割合が下がり、その他の蔵書の割合が増加し、蔵書配分率の改善がみられた。

第9類	中津小	中津中
6月	44.8	40.6
1月	42.3	38.9
メディア基準	25	23

※全国学校図書館協議会の学校図書館メディア基準より



## 課題・事業のねらい

●学校図書館を活用した授業実践  
全附属校で授業実践に取り組み、データベースに事例もしくはブックリストを掲載した。その中から校種の異なる3校が実践報告をした。

- ・附属小金井小学校
- ・附属世田谷中学校
- ・附属高等学校

●学校司書のための研修プログラムの企画・実施・効果の検証

●『先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース』の改良と普及

●研究成果の発表

## 実施内容

### 授業実践

- ① 附属小金井小学校
  - ・学校図書館と電子書籍を活用した授業実践
- ② 附属世田谷中学校
  - ・学校図書館を活用した中学校技術・家庭科（家庭分野）における住まいの授業
- ③附属高等学校
  - ・学校図書館活用授業の実際

### 司書研修の実施（7月26日、27日）

- 「地域資料の充実」「著作権」をテーマにオンラインで実施

動画配信

Webサイト『学校図書館活用データベース』による情報発信

動画配信

### ●事業報告会の開催（12月17日）

- ・3校の授業実践校の報告および事業委員による講評（参加者：約200名）

掲載

## 成果・課題

### 授業実践

- ①電子書籍サービスが有効に活用されると同時に、紙媒体の良さも明確になった。
- ②学校図書館、公共図書館、専門機関、研究者からのレファレンスによる選書
- ③電子図書館サービスの導入。探究活動での利用。公開授業での活用。教育実習生への授業協力。  
（課題）学校図書館を活用した学習成果の可視化および評価の在り方

### 司書研修

- 見逃し配信を含め申込み：288名
- 参加者の問題意識に合ったテーマで実施、評価指標全て90%台の高評価を得られた。  
（課題）引き続き司書だけではなく教員と参加できる内容の研修を検討する。

### Webサイト・事業報告会

- 研修等のオンライン配信によって広域な参加者の利用がうながされた。
- 年間アクセス数の増加  
2012年度→2022年度  
70,487件→213,340件  
（課題）GIGAスクール構想の中心に学校図書館が位置づけられるような情報発信。

## 課題

- 電子図書館の授業サポート
- オンラインや電子図書館を通じた読書推進



## 事業のねらい

- ◎生徒の成果を電子書籍化し電子図書館を授業のサポートツールとする
- ◎電子図書館を電子書籍だけではなく、本紹介動画のプラットフォームとして活用し、読書活動の啓発とする
- ◎オンラインでの生徒間の交流を読書活動に紐づける

## 実施内容

### ①国語授業での生徒による俳句集を電子書籍化



俳句・鑑賞文・写真を1ページとし電子書化。各クラス1冊作成し電子図書館に搭載。

### ②教諭による名作紹介動画を作成し電子図書館に搭載



名作読書推進のための動画を作成し、電子図書館に搭載。国語の授業でも活用。

### ③姉妹校で同じ電子図書館を導入し、共有資料を学び交流の糧に。



姉妹校交流のための学習資料として学園独自の冊子を電子化し、オンライン交流の資料に。

## 成果

### ◎図書館を活用した授業が増加

2021年度 213回  
2022年度 344回

俳句集を電子書籍化することで、俳句・鑑賞文・写真と工夫を凝らした句集を作成することができた。また、電子図書館に搭載することで、全校生徒の参考資料とすることができた。

読書活動の一貫として、名作紹介を動画で作成し、授業や図書館での活動のあと視聴。紹介本を借りていく生徒が多く、手ごたえを感じた。

電子図書館で作成した学内独自の資料は複数人の貸出や閲覧が可能で、学習資料として利用しやすい。



## 課題

- 学校図書館の整備・授業等での活用に関して、全国的格差が生じているため、是正が必要。
- 指導主事が研修会を企画する際に参考となる資料や事例などの情報が入手しにくい。
- 教育委員会が実施する研修テーマが、現場の学校図書館担当者のニーズと合致しているか。計画的・継続的で参加者に有用な研修内容となっている自治体ばかりとは言い切れない現状。

## 事業のねらい

- アンケート調査をする事で、現場の研修ニーズを明らかにする。
- 学校現場を指導する学校図書館担当指導主事に、学校図書館資料の整備・活用について具体的な知識や研修会内容を提供する。
- 学校図書館担当指導主事にの学校図書館活用教育に対する理解促進及び学校図書館とICT活用が融合して情報教育を推進していくことへの理解を深める。

教育委員会が実施する研修の企画・運営に役立つ、研修モデルプログラムを開発する。

## 実施内容

①アンケート調査の実施 ※参考資料とする

②第6回指導主事研修会の実施

③パンフレット「学校図書館いま求められている研修会プログラム」作成し、配付

(公社)全国学校図書館協議会WEBサイトからダウンロード可

<https://www.jsla.or.jp/material/research/kensyuupamp20230228.html>



## 成果

- 研修会参加者は、参加前と意識の変化が見られた。
- 学校現場のニーズを反映して、パンフレットを作成 → 配付。
- 全国SLAが引き続き研究していく課題が明らかになった。

★参加者等の変化については、今後の追跡等も必要になる。

## 課題

- 授業実践の際に、学校図書館の有効的な活用ができていない。
- 学校図書館の整備や読書活動支援員と協働した活動が進んでいない。
- 児童の読書に対する関心に個人差があり、読書量が不足している。

## 事業のねらい

- 学校図書館の機能を校内研究に位置付け、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。
- 読書活動支援員と連携し、学校図書館を有効的に活用する。
- 児童の読書に対する関心を高め読書量を増やす。

## 取組実施地域・学校の指定

滋賀県彦根市立稲枝東小学校



## 実施内容

### ①学校図書館の機能を活用した校内研究



「体育科(高跳び)の様子」

国語科を通じた実践に加え、他教科でも学校図書館の機能を生かした授業研究会を行い授業力の向上を図った。

### ②読書活動支援員との連携（成果物の掲示）



「成果物展示の様子」

学校図書館に児童が授業で作成した成果物を展示した。読書活動支援員に依頼し、手に取りたいと思えるようなコーナーの工夫を行った。

### ③読書活動支援員との連携（授業サポート）



「学年本棚や図書一覧表の様子」

読書活動支援員と連携し、学年本棚の設置や単元で使用した図書を一覧表にまとめる取組を行った。

### ④読書意欲向上を目指した図書館経営の改善



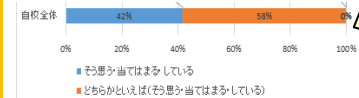
「読書の木の様子」

児童の読書意欲が高まるように書架を工夫したり、読書量を「見える化」したりして、図書館経営を改善した。

## 成果

- 学校図書館の機能を活用した授業改善  
研究授業を通じた学びを日々の授業に生かそうとする教職員が増えた。

◎校内研究での学びを、日々の授業に生かしていますか。(市)



肯定的回答は100%。

「彦根市共通アンケート(結果)」

児童アンケート「国語科の授業は分かりやすいか」の項目で児童の肯定的回答は91%であった。

- 支援員との連携による図書館・授業の充実

成果物を学校図書館に設置したことにより、次年度の学習に見通しをもつ児童がたくさんいた。学年本棚の設置により、児童がいつでも本を手に入る環境が整った。使用した図書一覧表の作成は、次年度の該当学年に申し送ることのできる財産となった。



3年生になったらこんな勉強をするんだな!

「上学年の成果物を読む様子」

- 全校貸出冊数の増加

2021年度	7,110冊
2022年度	8,716冊

「全校貸出冊数(4月~12月末)」



## 課題

- 各教科等の指導のために図書資料を使用する機会が少なく、学校図書館の「学習センター」としての機能を十分活用できていない。
- 生徒自らが課題解決に向け、図書資料を活用するなどして自分で考え取り組む学習活動を十分行うことができていない。

## 事業のねらい

- 学校図書館を活用した学習の充実を図り、教科指導等の改善を進め、生徒の「学ぶ力」向上と教員の教科指導力向上を目指す。
- 学校司書と連携した効果的な取組について、情報共有し、校内および町内の学校園全体への普及を図る。

## 取組実施地域・学校の指定

滋賀県多賀町立多賀中学校



## 実施内容

### ①学校司書と連携した授業づくり



授業者と相談して必要な図書資料を町立・県立図書館から収集したり、生徒の資料選びを補助したりするなど、授業に参画した。

### ②多様な図書資料の活用



第1学年から第3学年全ての学年において、複数の教科等で図書資料を活用した授業を実施した。画集や古典など多様な図書資料に触れる機会を設定した。

### ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進



多様な図書資料のなかから、生徒自身が必要なものを選択して学習を進め、異なった資料を選んだ生徒間で学びを交流する場面を設定した。

### ④町教職員全員研修会を通じたの普及



読書活動推進と「学ぶ力」向上の意義と取組の効果について多賀町内の教職員全員を対象に報告し、共有した。

## 成果

### ○学校司書と連携した各教科等における学校図書館の活用

活用回数	令和3年度	1回
	令和4年度	10回

### ○自主的・自発的かつ協働的な学習活動の推進



授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

4月	72.5%
12月	89.3%

授業では、学習に必要なことを、文章や資料から見つけることができている

2021年度	70.0%
2022年度	92.8%



## 課題

- ①学校図書館-市立図書館連携システム（サービス名称「ほんくる」）の周知、活用の停滞
- ②学校図書館利用時間の減少
- ③児童生徒と保護者、地域、また教員と司書等の連携



## 事業のねらい

- ①「ほんくる」「学校図書館」の利用促進、活性化
- ②児童生徒を支える「教員」「学校司書」「行政」「地域」の連携



## 取組実施地域・学校の指定



- 取手市立全小学校 14校
- 取手市立全中学校 6校
- 取手市立図書館 3館
  - ・取手図書館
  - ・ふじしろ図書館
  - ・戸頭図書室



## 実施内容

### ①代表おすすめカード



- ・学校選出の代表本と「おすすめカード」を学校及び取手市立図書館3館で展示
- ・すすめてくれた友達に「読んだよカード」を送付して交流

### ②家族部門おすすめカード

- ・「取手市うちどくりスト」63冊からとっておきの一冊を選び家族と一緒におすすめカードを作成
- ・取手市役所1階エントランスにカードと図書を展示



### ③心からおすすめしたい本紹介動画

- \* 紹介本は6冊
- \* 動画閲覧後に一番読んでみたくなった本を投票（投票総数467票）
- \* 最多得票本は177票を得票の『風に恋う』

- ・おすすめ本紹介動画を撮影
- ・読み聞かせ団体の方から、指導助言を受ける
- ・市公式YouTube動画ページで限定公開

### ④司書教諭・学校司書研修会

- \* 研修内容
  - 利用カードの運用方法
  - NDC第10版の変更点
  - 棚コード
  - ほんくる英語版
  - ほんくるレクチャー など

- \* 参加者数39名（オンラインでの参加者も含む）
- \* 学校職員間で交流

## 成果

### ～児童生徒の読書環境を支える連携～

#### ①市内小中学校間の連携

「よんだよカード」を活用して他校の児童生徒と感想を交流  
さらなる読書意欲の向上へ



#### ②行政間の連携

市立図書館と教育委員会指導課・学務課がタイアップし「心からおすすめしたい本紹介動画」の撮影・公開・投票を実施、また研修会を開催

#### ③地域との連携

地域の読み聞かせ団体により「心からおすすめしたい本紹介動画」の本番撮影前の練習会で参加生徒へ直接指導助言  
コロナ禍における地域と生徒の交流が実現

#### ④市内小中学校と市立図書館との連携

「よんだよカード」を図書館経由で送付  
ほんくる周知・活性化  
\* マニュアルチラシを全小中学校に配布  
\* 「ほんくるレクチャー」の依頼を募集、希望校に図書館職員が訪問しレクチャーを実施